

むつ市地域おこし協力隊活動状況報告書

むつ市長 山本 知也 殿

隊員氏名 大崎 祐暢

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2023年5月分】

1. 実施した活動の概要・状況

5月はゴールデンウィークから始まり、暑い日が多かったように思えた。夢の平成号における、初のガイドを行ったり、牛の首清掃活動で多くの参加者の前で話したり、漁師のホタテの稚貝出荷に毎朝通ったりと、あっという間に1ヶ月が過ぎていった。

（主な活動）

◇5月7日（日） 牛の首清掃活動

脇野沢のジオパークスポットの一つである「牛の首農村公園」において清掃活動が行われ、参加してきた。「普段通っている脇野沢愛を語ってほしい」と依頼され、スケジュールとはことなる形で、大勢の前で脇野沢について語る機会をいただいた。目の前には脇野沢に住んでいる人たちがたくさんいる中で、脇野沢に住んでいない自分が語ることが少しおこがましいのではないかという気持ちと、緊張が混ざって、思うように話すことができなかった。

ただ、「脇野沢愛」について語るということで、普段自分が好きな脇野沢は雰囲気や感覚的なものであり、それを人に説明するとき改めて、何が好きなのかを考えるきっかけとなった。また、感覚的に魚種が多いと感じていた、その根拠を調べる機会にもなった。

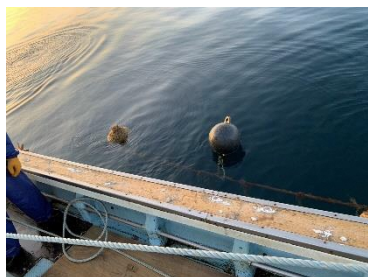
今後は自分の「脇野沢愛」だけでなく、自分が何をなぜ好きなのか考えて、人に説明して、その人にも好きになってもらえるような話し方をしていきたいと感じた。これは、自分の弱い部分である「プレゼンテーション」にもつながる。また、大勢の人の前でも普段通り話せるように鍛錬を積んでいきたい。



◇5月23日（火） 川内町田野沢でのホタテの稚貝出荷作業

川内町田野沢地区の知り合いの漁師さんの元で、稚貝出荷のお手伝いをしている。毎朝2時～3時頃に起床して、4時前に出港する船に乗り、ホタテの丸カゴを船に100個ほど上げて、帰港する。港では、船に積んだ丸かごをほろって、中のホタテを取り出し、洗浄のち、出荷する。沖に出て丸カゴを船に引き上げている最中に、イルカに遭遇することもある。

この経験で、その地域や家によって、人数が違えばやり方も違うことを改めて知り得たとともに、漁師の人口減少の打撃を感じた。船ごとに人数がいても、その年齢層が高ければ、スピードはもちろん、やらなければいけないのにできない仕事が出てくるのが分かった。特に力仕事において、自分の本領を発揮し、少しでも役に立てるよう今後も早起きして頑張りたい。



◇5月26日（金） 夢の平成号 初ガイド

脇野沢で運行しているイルカのウォッチング船「夢の平成号」の初ガイドをした。その日は、1便には脇野沢小学校、中学校の団体利用、2便には一般のお客様と常連のお客様が乗船した。どちらの便でもカマイルカの大群を観察することができた。

1便目では普段、授業でカマイルカについて学習してきている脇野沢小中学生がお客様として乗船した。解説しようとした内容をすでに知っていると言われ、クイズを出しても即答されてしまった。そこで、自分の経歴の話、前職の話をしたところ、興味を持って聞いてくれた。無駄だと思っていた経験も、こんな形で生きてくるとは思わなかった。

2便目では一般のお客様と常連のお客様が乗船した。1便目とは異なり、カメラを構えたお客様が9割ほどいたので、カマイルカの解説よりも、どこにどのくらいの距離で見えたかを話すよう心掛けた。また、脇野沢での漁師との話や、現在行われている漁の話などをして、常連のお客様でも飽きないように努めた。

この初のガイドの経験は、これまでの人生で学び得たことを発揮できたように思う。状況、お客様の反応から自分にできることを探し、試してみる。この試行錯誤が楽しいことであると改めて、学ぶことができた。次回のガイドでも、お客様の反応とニーズを探って、お客様に合わせたガイドを行っていきたい。



2. 翌月の活動予定

6月は脇野沢においてイルカのガイドとヒラメ漁の網おこしがメインとなってくる。昨年度実施した湯野川でのガサガサや、ホタテフェスティバルなど、催し物も満載である。体調管理に気を付けて活動していきたい。

6月 3日 イルカウォッチングイベント

6月 6日 脇野沢イルカ調査

6月18日 ガサガサ探検隊 in 湯野川

6月25日 第二回ホタテフェスティバル